

地方都市視察報告書

総務区民委員会

1 実施日 平成29年11月7日(火)

2 視察地 三重県

【市の概要】

(1) 面積 5,774.41km²

(2) 人口・世帯数

(平成29年9月1日現在)

○人口 1,799,162人

○世帯数 730,887世帯

(3) 日本のほぼ中央の太平洋側に位置する三重県は、紀伊半島東部に沿って南北約170km、東西約80kmと南北に細長い県である。

県土のほぼ中央を流れる橿田川に沿った中央構造線を境に、自然環境も北部と南部で異なっている。北部では東に内湾の伊勢湾が広がり、北西には雪がよく降る養老、鈴鹿、笹置、布引などの山脈・山地が連なっている。一方、南部の東は志摩半島から熊野灘に至るリアス式海岸が続く、西には県内最高峰1,695mの日々ヶ岳(大台ヶ原山)を中心に「近畿の屋根」と称される紀伊山地が連なるなど、多彩な風土のもと、美しく豊かな海、山、川の自然に彩られている。

その一方で、中京や関西圏ともほど近く、人口10万人を超える都市機能を備えた市も多く、市街地と郊外の自然をほどよく併せ持つなど、ライフスタイルに応じて多様な暮らしの実現をめざしている。



3 視察項目・内容

多文化共生の取り組みについて

4 視察参加者

【委員】

佐藤 佳一委員長	志田 雄一郎副委員長	木もと ひろゆき委員
川村 のりあき委員	野もと あきとし委員	池田 だいすけ委員
下村 治生委員	えのき 秀隆委員	かわの 達男委員

【随行】

議事係 濱野 智子 唐澤 一彰

5 視察結果・所感

三重県では、平成28年に多文化共生社会づくり指針を策定し、「多文化共生がもつ力の活用事業」、「情報や学習機会の提供事業」、「安全で安心な生活への支援事業」の3つの柱で推進している。

国籍では、ブラジル人がもっとも多く、その多くが製造業に従事している。多文化共生推進会議とともに外国人住民会議を設置し、直接外国人の声を聞いて施策に活かすようにしている。さらに、医療通訳育成、災害時外国人サポーター養成、契約トラブルなど3つの研修を実施しサポートを行っている。また、タブレット端末を活用した通訳を開始したことなどが特徴的であった。

6 主な質疑項目

- (1) ICTやAIを活用した多言語対応への取組みや検討状況と課題について
- (2) セミナーや研修の内容と外国人住民と日本人参加者の比率、募集広報について
- (3) 三重県外国人住民会議の参加者の出身国や内容について
- (4) 三重県外国人住民会議での意見等について
- (5) 外国人世帯の子どもへの支援について
- (6) 外国人住民に対する地域社会の意識の醸成について
- (7) 県内の市町との連携における課題について
- (8) 外国人住民会議や多文化共生啓発イベントの費用対効果について
- (9) 平成21年における外国人人口減少の理由等について

7 その他

【共同視察者】

情報システム課長 熊澤 武

多文化共生推進課長 内野 桂子

